梅ちよふ美

四

1 4
3157
44 (3止)

武久文庫印

イ4
3157
44
(3上)

畫讀巡記

今も昔の世の中を人の心の移り変り様を
あらまし〳〵聞くに女子とかわらぬ有さま
けれども家富栄えて何不自由なく只大きなる
なやみとなるは唯頼みなき言葉の花
過ぎし日の面影を思ひ出して今日も今夏
時誠にかの見え侍べり男女のあらそひを
翠帳紅閨の中に新枕をかはせし初恋の

[illegible]後世のたゝく契れく出てこゝのあとを種ゆも[illegible]
婦[illegible]聞きてつゝまて何事も男は身の上れこゝろへてを
[illegible]和歌と[illegible]野[illegible]のちゝさくかきてくまあるれん
[illegible]ゝまぢ[illegible]れくいろ〳〵まさ[illegible]ぶるなんむう〳〵
[illegible]ゝ[illegible]亜光[illegible]女[illegible]富人の娘あるに[illegible]ぶ[illegible]の
文陵[illegible]春と[illegible]人[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]く霸陵[illegible]上
所ふ世をのゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]同の[illegible]ゝ[illegible]ぶる亜光
[illegible]ゝ[illegible]世を夫[illegible]ゝ[illegible]知人行田をこゝ[illegible]と

[illegible]ゝ[illegible]身ゝ[illegible]人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぶ[illegible]ゝ[illegible]
を[illegible]ゝ[illegible]禮義を厚く男は[illegible]ゝ[illegible]他の[illegible]
をゝ[illegible]ゝ[illegible]誠をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]近世の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]義理と道[illegible]美[illegible]を著
[illegible]ゝ[illegible]出世[illegible]ふ人で[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]一度[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]世の
婦[illegible]ゝ[illegible]身[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

書房文永堂上梓

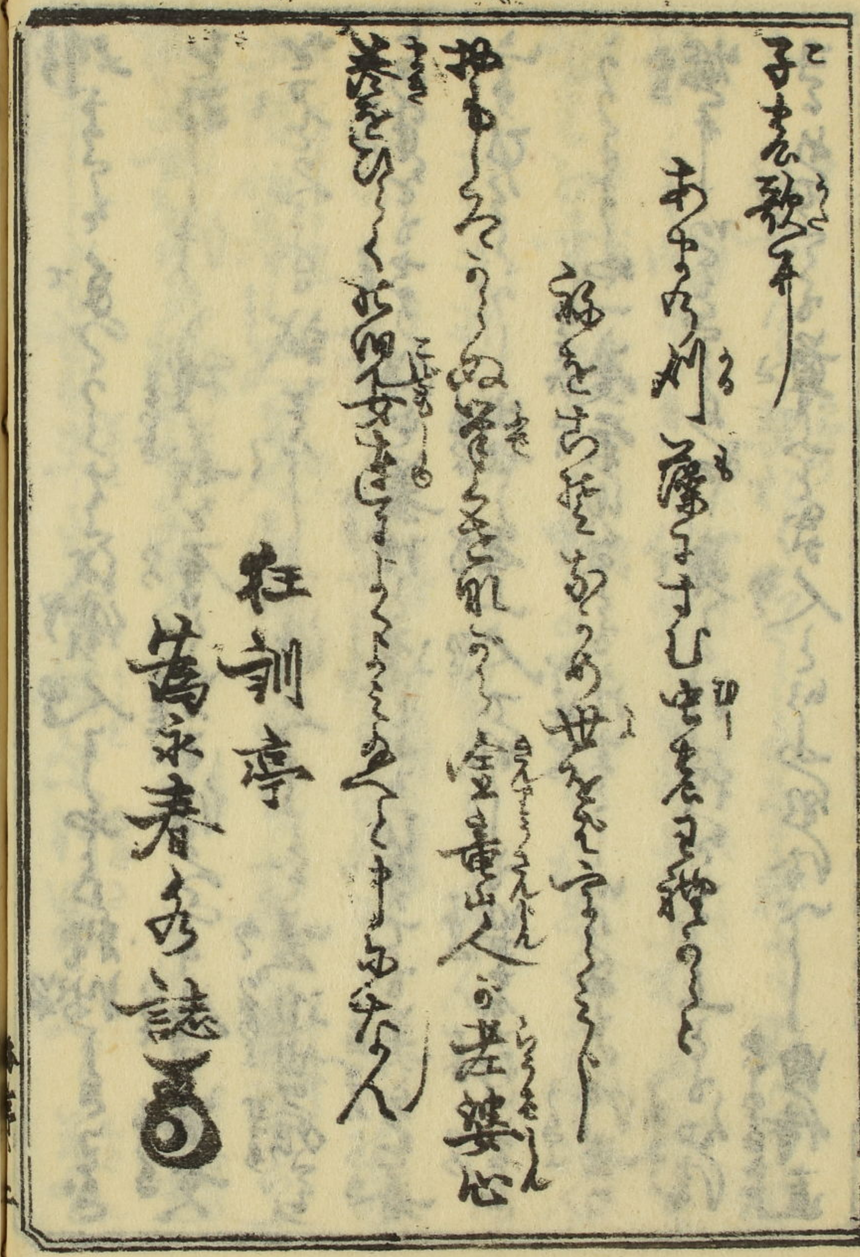
春色梅兒與美第四輯全

本弐卷

天保四癸巳陽春發行之記

柳川重信畫圖

柳川重山畫圖



隅田川
勝景
真寫
関口しう
横かけ図

竹蝶吉

文亭主人

晋子

梅の於由

唐琴屋内

全盛此糸

○ 春雨のまぎれに咲も行方なし
ほろ〳〵と散る梅の香　二代目 十返舎一九

○ 酒の名を白梅よりて学べ
てらし〳〵言くも初るつげなり　假名廼末成

○ 君姉子のお紐とぞ思ふ間の宵の
あく〳〵るあそび〳〵と白ふ梅の香　松亭金水

○ 文好む名をめでたさを梅ぶよく
ゑ〳〵ら〳〵ら多くへ思ふのちどり　三亭春馬

春色梅兒誉美巻の十

江戸　狂訓亭主人著

第十九齣

さてもかの十七回次の由と蝶吉を彼藤兵衛が音信を待小四郎変
ものきたるの人の尊も何やらきたる風聴よりと笑て毛
五四郎さんとかゝるのお言葉の茶後とお風きまりなぞ花
多栄さんと何ぞ海ねてるの出来さのでぐぐひゃ仮うとぼのき
く得うりと結成寄　イヱモンどうもとんごときまアノ

蔵さんハ母あの世話で第一なんの福育人殊に使ひ
お方ゆゑ世間も広く雇一人指こもものも独こもちゞ
今度大丈夫〳〵男の理屈とゆくも外でハ多く金り
諸方附合ゞ度さうゆくゆゑ金ゞ際限も多く入さゆゑ
大分内証ゞまゝうくさうこまゞそうも負も角も今日こさ
しゞお身ひまうもハ外じゃうの家防町のお河とゆゑ
さんの抱お嬢ゆゑ金の給金ハ代ゝくい嫁入約さゆゑ師
のお由と相見合せもや涙ゞ出姫書の先ゞ引ゞ兵

五郎ハ山ゆ笑へ　そゝの給金成蔵さんゞ残らゞ
幼ゞしゝくゞうさんに渡ゝ字ゆゝとゝゆゝの金を蔵
さんゞ取ゞとゝの先童人ゞ遣人ゞ宇ん宇ゝ行さとゝゆゝも
蔵さんハ指いもゆゝとゝゞ〳〵ゆゝそゝの童人の遣人さ
ゝ蔵さんの裏紙袋中ゝ入紙士の名ゞの書物を
こゞく老女も書ゞ行く渡ゝ金成蔵さんゞまゝそゝの
先ゞ遣ゝゆ来ゝと推量ゆゝ紙へと紙士ゆ表向ゝゆる
とゝゝゝゝゝ丁度ゞ合ゝく先ゞバまんざゝ蔵さんとゝ

あ
今こそこそーのことを捨ゆもうく極へときのみうく爰さんと
お尋ひきうくーことけざけきどモウ問くこうかうもと世
てこんりやう仕うこが極へどどをお阿と金紙マア半金ぐも
渡ーくく元屋く問渡ときいめごトいふわうふ表の
さきをくくち方墨八を寄を掛　墨へ入田新さんそんうこおきの毒ごゞ
お代友さ更へお阿さんとやりやもゼ五拍ヲイくー墨八を更へ
どうく今月一日延ゆきうふとかーちやアムきてれめうア
こきこんるこうハ爰さんハ初んなさるめこまうこうのご由モシ

どうゞ問くふちる仕ゆうハごゞいやまいうまトさゞるふ
利業のお由ぐも身よりくくる爰ゆるよりもくこ
てやお様ハのとうり年ゆうゞ途方よくきてる女同士ハウ
お様よりや爰さんゞ甚拍ふてハありもあまへ極へ様アイ
どうーてそんなこといてゞ他の物紙とるうんゞとうふ
音ザアモシ極へハきくわるゞ紙へとの人絶すゞあうてお阿
たアさんのひの底ゆも爰さんゞコすきくきて移ところ
うとゆーハ笑ひも寄うけきどうねゞ森損ぐとくきさ

金ぎんくしゃみだれて四名ほど菊さんをれ
てどるきを見ふるうさのハ指まの強欲のどうも仕ようで
ざのきませんトいはくお内八五四郎ふ相談し紙の金ぜと
と立願その糸ふるつあ十六六ちどの品ふ風呂しき
をくく濡ちるも濡せば五四郎結ばく「やしく」ちや
ちくハ菊さんとあらぐのまうとだりふまくぐも仕
ちぐ四糸柳つと毋ごこまを成さんふ七ッ半ちて
マアざ門とは金ごこまを成ぐめやせうとハ
の菊さんハ一向知ちる四日ける卯ちう盗人が出ごの日
ちハちまち四ちる代物しくマア数を書閉ちぐちる
ちいませんら由ハイエナニ大事おぐえくりまを五ちう
ハちくく濡ちふその門菊さんがお出ちうのお明成
いちそうぐ四まへのお宅ハどちらぐぐいまを五ハイ五
さしハアノお阿ぐアさんの表ふ表ちまりまをいぐ
きまちを四銅まぐよ代方へ糸りまを上ト関屋数脊廣ひ
出ちける門口お嬢ぐ方とちぐ四つく六へ某ちる丹波弟み

しらう
四郎と家当り 丹八ハヤ久しの お松兵衛 能面で 逢て
マアトハ 五ハイ 今少し
ハ 此盗人 ゆエ ふそ人 奴ども ぬゲ お蔭で 丹次郎ガ 日
新銭 こけ 今の 新義 留山さま
小出 宮の 系 知 ふあまで 金子の 行方 三人の
判と 偽 主 罪 サア 一 別 ようせあまと 三 ぶり
ありたら 五 吉 と 日 くも 日 ふ 日 下 出
付わり 見 人 宮の 金の と 留山 ふ 強

会 御 別 ら 時 丹 さ ら 強 ト
文 出 を 文 四郎 組 丹 次 あ ふ と ろ に 思 ハ が 丹
次郎 級 引 側 ハ 此 驚 ゆエ 何 銭 す る の ど 新 ふ
紙 人 合 ね 見 四 せ ど サ ア 文 四郎 さん 三 ど 三 ト 丹 次郎
ど 銭 銭 こ ど ハ く 二 ち こ ら ち る 三 ま ハ て 文 出 と 二 人
そ 三 と 刀 る こ り お 蝶 ハ 三 出 蝶 お 先 ハ さん 丹 さん お 蝶
我 ハ る そ ハ ま せ ん う ど う 三 手 ち こ の で ど ざ い ま 沢 ト 泥 変
す ま ば か 内 も 門 へ 出 る 向 の 縄 屋 今 文 出 ハ と 五 四

卿と紙屋八郎衿がき紙ほうんで投出をる義の義兵衛

○そもく五四郎とのくるふ丹波うふ出でるれ物なる

書家の書記松兵衛とのゝ悪漢こそ丹次郎ゝ沢

前の書家唐琴屋の鬼兵衛と三人合丹次郎を

ぶん〳〵てゝその出をゝとゝ〳〵急ちその家紙押つぶ〳〵

借金をゝ外に丹次郎ゝ対面ゝの排斥を

掘乗家へ妻そその人倉紙を近〳〵酒をとめけ事に

きひゝく〳〵隠をゝ江ゝ事の義兵衛方

に書類とありてゝ〳〵義兵衛けりど上を信ゝの

ゝ方へ義兵衛貴用ゝく明夏の出来

く山方のゝとと同屋〳〵旅を明〳〵も山人出郎小

ゝ紙ゝて紙ゝ〳〵ゝ金ゝを駆け賽法町

のゝ阿ゝ方を横合せ事ゝ蜻ゝとゝ田ゝとを殘

らぞのゝこゝをせゝくゝふせんとゝゝせ〳〵よさゝをゝ

義兵衛も無紙の自紙流うゝて聞くのゝとゝゝを

ゝさゝ〳〵他を知〳〵ゝば五四郎指嘉の悪念

きぶ〜主人茂兵衛このさびの様子をうかゝ
ひ十日八ツ時ばかりに古支度人の服
を出すめ十枚ばかり乃せの合羽袋をおこしまへる
帯に一二寸を渡し毛お脚ぐ方へ走りの汚ぬ安う
うゝく出るく今日俳りてお由ぐ方へ乗り同繋の
家八と二人ゝくうまくお由ぐ〜合ゝ多敷
をめぐり元しぐ江八諸の時や乗りうん茂兵衛へ
山方のお様ごと途中ゆく親ひうゝかゝ渡りて

入口弟ゝうゝ六迄の抱ゝ成ゝ女お阿ぐ方の時ゝさ
るまで聞ゝ〜ゝ元ゝ〜ゝ乗りゝ〜ゝ見ゝ入口
弟ゝ〜ゝ〜ゝりゝうゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
梅のお由と様ゝ人ゝ茂兵衛ぐこの場の様
るゝのゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ茂兵衛ゝ二人の奴を
引ずり移ぐゝ〜ゝ茂〜サアゝうゝゝゝゝゝゝゝ
弟ゝうゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝる立流の様ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

此方へむかひ 汝ハ菱多来甚奴と近しくまじハるなし
天窓わけらましく かどろかく菱多来 若 さ 実ハ本田の
次郎云置にきくしと年むかへにてしく 出迎ひ
謀事が安宗内よつまく 菱多来が彼侍ハ去秋すまべ
本田の次郎も手ちかづき座ゑわらで春の郷ふ
引出縄を笹酒の内へ 近寄入二人思ひがけなきに本
あの二人も屠所のひつじ 猶せまさ三拾く芽ぐみかぞの
七草の祝ひもなく 後悔しもせず至りける

第二十齣

再説本田の近常ハ於由が富居の座しきへ通りし 菱多来
お由嫁ハおのく首級を本に付く 不思議の来歴と問ひ
まくせべ 次郎ハ悪漢の樹立ちかくすて 菱多来
にまちらしくるハ 本へ 執着呂今此思ハ頭石擲しら主君
重忠の此下知なく 雷く捨穿ある白旗 つり文其
古が捕へとるハ丹波郎とよるの此縁起をするる不思議の
代松とよるものに 何右居ら人 宝

ようゝ私子細ありて又ん遅ゝ
ごとき今ようん其ほ八物の新
私ども既に同無あるものゝ
ばほ八のゝ佐文注所よりつれ
ようん其方の身に捕へゝ彼奴ず悪さの八何事ぞと問
蔵高橋山往の一寸をやうゝけまべお由妹者八いかを更
今八り帰りゝ丹波殿ハも薩イゝく五四郎ゞ生無村よ
おそまり斬る処へ近常ゞ供人九二四人垣の外より差
ぬき切る風情よ市田の江郎と戸戸門より呼いまくへ
四郎ノ居八と引波ゝ宰屋へつまとゝ帰りゝ

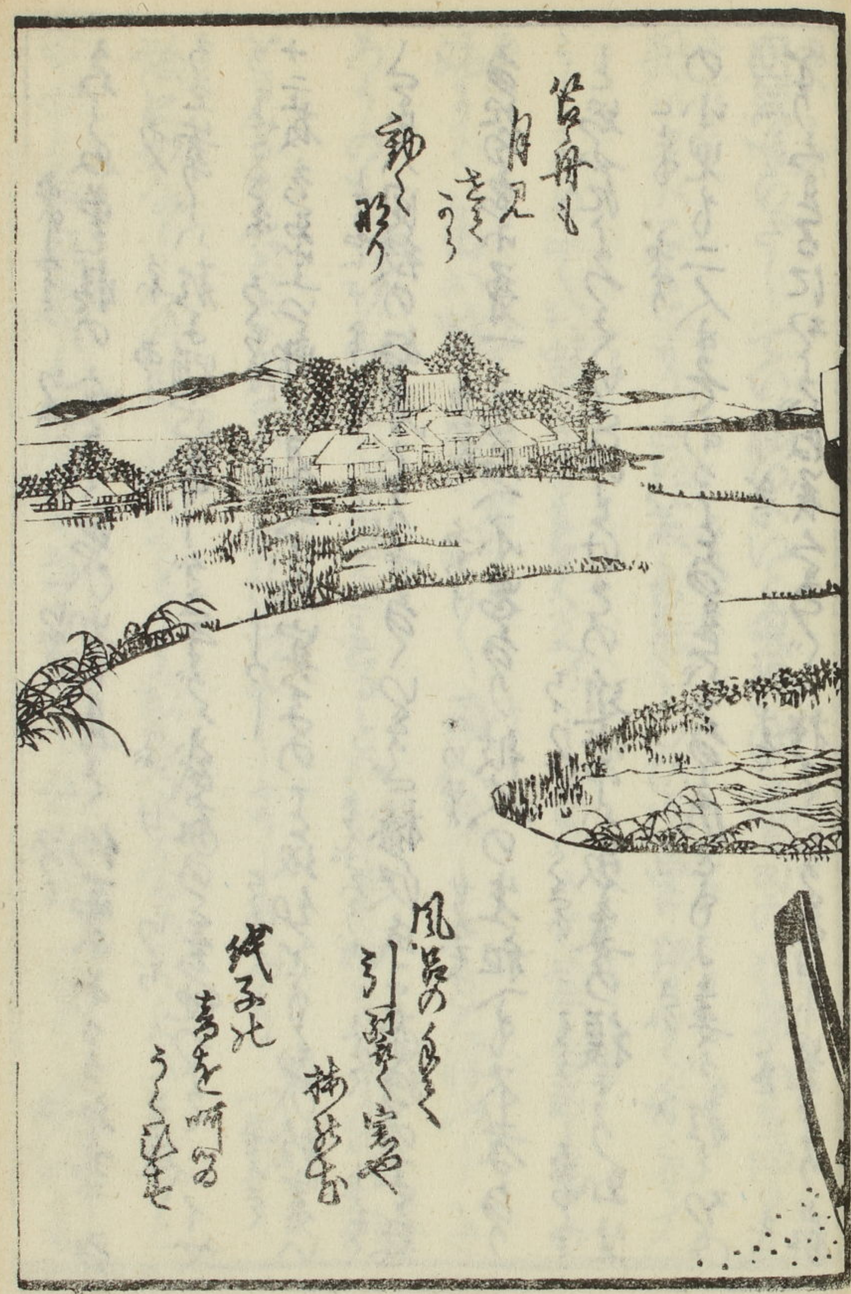
ゝ
高ゝ先に出ゝ其ゞ八出とでまうと
新ゝゝ義八ひきゝ出でゝ
屋式さゞりゞゝいやとうゝイ
其八女ゝの住居の様子長
問このこと様他人中でゝ
私ゞ遅き遅い内縁の者の宅
高ゝゝ高ゝゝ皆ゝゝ八きを高
ようゝ縁者於内八帯の方八

トキニ蔵高橋
ゝ実
ゝ八
ゝ遅敷まう
ゝ六
ゝ

菱名の「彼も親この一件ハ委しく詮索ありしましくも唐琴屋
の息子よりくく又く他国へ息子に来りその家破滅の折からハ
縁者を離し丹次郎どのこそ素性ハ例の奥すぢ子相違ご
ざりませぬ「スリヤ榛沢右卿が隠し子まさく若党のうへより
その母諸共他へ出奔せし小児ぞ丹次郎まてありけるか六
郎武清が影よしそれまで同紋のよしこ子娘お蝶
の心根思ひ出つく年来よりし親孫なれどもそ満足して
も時節娘結く親六郎へ対面してきせ渡くもぞござらう志
かし彼丹次郎が隠くの宅へ宝の一巻で来りし附十六六丈
の容義ハ見さく娘が深き中となる者とも来り合しく是
と知らず粗その外に彼重上に出まで六まで者とゆがいて六
ぞがし物語の六郎どのへ親子の対面ハ迎当が請合て今
ハ妻にハ拾し身ととり手一様ハ海まで六出へ行く兼信の成
陸へ駒姫ある同前しやが親ぞ見り娘ひとつたしくての家
証とあつたとこそ榛沢氏の嫁ぢやとものハ見る様か女ぞもで
ござるか「其義もいつく直後呈し丹次代く詮索して

たゞ一すぢに実義と力をこめて
仁丹次郎くるの人徳むよりこゝ
義も大きくこゝに死すべし
相正一郎、迎へ万事一切のみこゝ
とりわけの業も英へイイエ毎度四郎
四郎のきこゝにまるる接沢さ
ぐるの人百分一郎もこゝねれそ
由彩遠くの日こゝ仲栄まこゝ
るも由ゝ使の女中に四郎

きこゝ財好月いこゝ相子右
きこゝ後くきけばその女中も種を妻産いこゝ
つまゝでいづもこゝ保ばこゝ
もこゝこゝへこゝひこゝ
知義つけきこゝ
迎常面義右め
後ともも左相子義八変こゝ
も昔のこゝ



ろくねん兵庫の今さら男に出られて何百ふわるう紙事を
うと紫じゃ新よ顔ふまーがさ手すぐ武部のこ地つく迎イヤ
十二歳ろ和土い郎が月えくねぞ実子のこ城知とりちひ絵寝い
ふまたは同級の好男だうでるくいまぐ樺沢氏よ家婦のこ息
ろ元名ふ弟一ま君不寝ろり彼人の先祖へも不孝ろり
と思ったろくいこたけこの近常ふ男妻の復ろう出生
の小児も二人までるこまぐろ元ともよ妻ぐ新くりの
ろうるにおくぐね義ふまぐ推くおま生ヨト是ろう部

同級のぐーこい福のふいこ男張つげ警田の近弟ふ主張るふ
丹ふ家ふこまこまろうこ元歳ろ和と子ひ近常張ふくく伝ろ人
ーろめくく妻ぐーーろりこそ歳ろ和ろそのこ
ろ妻ぐ田お嫁よ寅ヤレ雨人ぐくきもとぐーこ
ろうのう由ーりんよこアぐろこまるとふ和くぐるふまくさんのお和
とりんるまでふどんろふ妻ろ力といくこくーまーーころう嫁モリ
孫にかろのーこりくく和のこくくあまくさんぐどうこまること
いのこと元悪ーこりくりまーろんぐ歳こくぐくくこと

宛かしおまへが来やうがおそいとあんまりかわいゝそうにおもはる
ところであつたそのかはりおまへが当所で道中さまにつかま
つて連てゆかれてたらモウあのつらい人をまつのお刑罰にあう
からおまへのいまいましいのんきイヤあんまりでござりませんかさ
の御亭主がおしへてくれる事にお阿が所へおいで今は古手屋
しておいでなさる桑門の妹が見えたとほうばう仮住居を見て
隣の人が請人で今日までは桑門を尋ねて帰りませぬ
ざらざら衆に来てもお阿がおいでさんが毒気なおもふて

新ごとの所へ行会しへがイヤお阿が毒角でおいでと云
へもんざ孫しやしざあんまりよくおもやがつてが来んで
あんやうりくが所へ出た人のなかのは居候をしりご帰を
あまりのうちに龍脈もあんも妻といふ相続ぐ長屋の
具屋が来てく盃取つけくねて若居中があまりつく宮
笑ひをしく注りのは人もあし居を屋の葬式するを
引まく絶へつとの小お銭をしくつくつく張るやうさる
わどく人言とのかのは豫をつくかのへおれへせそまで世く

妻子侍従及王位隠命後世不随者と仰さるゆえ
てんかの雑業成いのく老迷てゐることも孫へそまとうう
コウ お聴ゲうう モウ ちゝのかゝゞゝ伝の所ゆうゝも高いの事る
業づめ〳〵ねゝせ 賜 まゝとにあり〳〵ゞゝゞゝまゝ広高〳〵
マア お あさんもう見いそうあこゝ成いさゝ〳〵きゝ〳〵 孫へ
あるほどあめのゝ乳めゝゞゞやいくきびゞゝとゝあのゝめくが
ナラ〳〵 最恵とりかゝいのゝる時分ゞゝナ 由 〳〵ゝるい
ものぐゞゞいやうまゝ〳〵 孫 イヤあらゝ今見大切な日ゞ新

しもやうあゝまゝ見〳〵うゝや〳〵 驚 驚ゝそうゝそイヤく
驚 驚ゝようゝあ化あゝうゝ 賜 ヲヤゝゝ毛ゝ王今歌ゝゝ山方へ
お 酒ゝうゝさいまゝゝあ 由 〳〵何現 見 出ゝく急化ゆゝゝ
さるのゝゞ極〳〵 孫 実ハ山方〳〵 極 ゝび ふ 来ゝゝのゞけまゞ今
見 出ゝゝと今日ハ己の日ゞ見 非 剛 強〳〵 系 清 ゝ ゝけ
まゝゝゝ極〳〵 賜 〳〵 孫 そうヨ 賜 〳〵 孫 〳〵 さんと
新と同ゝゝつゝまゝく おゝ ゝ孫 〳〵イヤあゝく ゝゝゝゝ
今見ハゝゝ極〳〵 命 極いそうゝけまゞゝゝとのゝゝゝ

七ツの鐘ボウン〳〵 米「そんならモウ七ツだネ 仇「あんまり
今日ハ日がくらくハト急ぎわかれて帰りゆく二人が互に
別れし米八ハいろ〳〵とやさしく仇吉と意気の気根のあら
そふなる丹次郎とも争ひの口喧嘩せしが此頃ハ深川の
芸者の中にもまれた仇吉ハこゝに八幡の社内で立ち去
さうな人前もなく取りつけ甚だ小くしの覚悟をきはめ
今宵別嬪の弁天へ獣ほどの縁をむすぶ仇吉が後をまもる
く様でいひ已の日なれども獣の争ひ人目をしのぶ今日

上るは手練しらかり米八ハよねはちや下女が引きとめ簪をひき
ゆるくる者あまたこれハとおどろく米八がふりかへりつく顔
見合せ米「ヲヤおまへさんハ藤兵衛さんでございますか 藤「ヲ
さうであつたか御用ありしところが今の途中で思ひがけぬ喧嘩の
中にも見やしたりしもせうがコレ米八マア深川芸者のつく〳〵思へバ
し何でも傾城水滸伝や女八賢伝が流行でも女の喧
嘩ハ色事が種ぜハテこまるでハとも女も勝負きめる
女子なりへ仇吉マア こんな事ハおまへが女房気取りでするをも

いつもおまへが日頃口癖のことじやア無へ今までのやうな
心得違ひし一冊の草紙大事におもひつゝ連綿書のふく
義者の急務やそこそこの著述に從ひてまけ今
作り上てお作しし一立流よ自分の数の立川仕方ハ
おもひしてうんせるトおもひがけなき著述の事斗とよ
朱八ふしんがれ朱「そんなものはもつとも著「それでま
いつて気紙斗しかしとかく一冊の紙大事にするぞ心
とわまそ六著述紙ハ肌をおかざく世話紙とるマアその
津のりてこうかう宅へ帰りつゝ附合紙待かのとと豊
りて後引つゝ立帰りその後著述の事がそれをひつて大
勢の心得者紙あつめ甚だへ仇右冊次第が良ぶまえ
よあまちんその立ち一帯残る外あくまかりひなる
朱八が数の立ち一帯残る外あくまかりひなる
この壁紙の並後ハよろしくよろしく陽の
ある丁数つゝる就属しがてしよろしく三編の
出版にその風情紙見せしのゝ近きあふやらあの
らぶ此著紙の追加としてらうしく必覧よ

そもの屋一則ち外題も

梅ごよみの春色辰巳園 狂訓亭作 國直画

餘興 全部六冊

紫式部の物語後ろく少言覚の程ど書帝イ

春色梅兒譽美巻の拾了

春色梅兒譽美巻拾壹

江戸 狂訓亭主人著

第二十一齣

再四そんしやそもそもこゝぬるに雲やうこう秋半ば月

そもそもこの度の逢引その後の第ふ昔八の張り八さ

ろ家ーあるもどけ八苦労おわく半ばの寓居にお由ゞ

の筆ゞ愛をのうく姉妹と極ひ例の妹吉ゞ姉弟大

ド事とゝ村 アノウ姉さん妹さんハ山前ハ縁に

おもてどうぞ[illegible]ぐくみ[illegible]上今[illegible]や義さんとの[illegible]後見ガ出
来ごろうこまが丈夫ぢやアありませんうちのトうきく
[illegible]ナ様「アイヨおまへも他のこと後生苦労ばかりしてゐる
性ごうの私ガ元来の[illegible]田の残をると直に業ぢて用ド板
に[illegible]ごうこと[illegible]ツイこり性ごうの徒ガ[illegible]へる板
[illegible]くいまでの奴[illegible]ガ出[illegible]くッて[illegible]
[illegible]ヨトまあ[illegible]人[illegible]ガ仕事[illegible]の内義[illegible]
ふこと合点ッ「ハイチト出免[illegible]ます〳〵お田さんとも

こもごもそこでございまして[illegible]トかとづく変お様ハ五出様ハイどちら
[illegible]ます〳〵と「アノ私ハ[illegible]の大和町[illegible]家ド
ます〳〵[illegible]お田さんに[illegible]
ございまして[illegible]ごうこと[illegible]
[illegible]の義[illegible]変の方[illegible]義[illegible]方より
[illegible]ントお内変[illegible]様さんこちらへお連のうして
おもてトおうつ出迎の中の[illegible]ハお様ととりかへ[illegible]内義
[illegible]お内変[illegible]ふしんの新内義ハ何やら服ガ濡[illegible]その

座が定まりますとまづはじめそのわけさらに尋らく　まあ　其の彼内
義「早速ながらお由さん御縁談ある方もあるべけれど
込入ると私が知りましたも……
におい嬢さまより揚羽遊ばしておゐでなさるに　お由　揚より
「大和町から大和でうちのお手業の春さんの　内儀「是れ
バサそのことでは……じゃマア　これ彼地……して下さ出し
ろう一つ昔蒔絵の織絹縫取を致さし　組の懐中
盃下さいましも世に知る下の句の「わらが……の文

宇まく言尾が筆跡のせしありお内では彼いとうしく
手に入れてその月もまたこれ筆跡せしく八重村と上に
就せし古跡が出来る様と書く　彼内　其の書つけにして
只でさえ……の後日の稽古と……洞……お由
嬉しくお目出し　由「そんなら私がやつの御別とやさ
お母さんでございまするわ　内儀「サアアノーと通るも出来まへい
ろうでし……雅筆して……母と……も壊……
淫然……お由も……あるとわけ……寄……　由「不正く

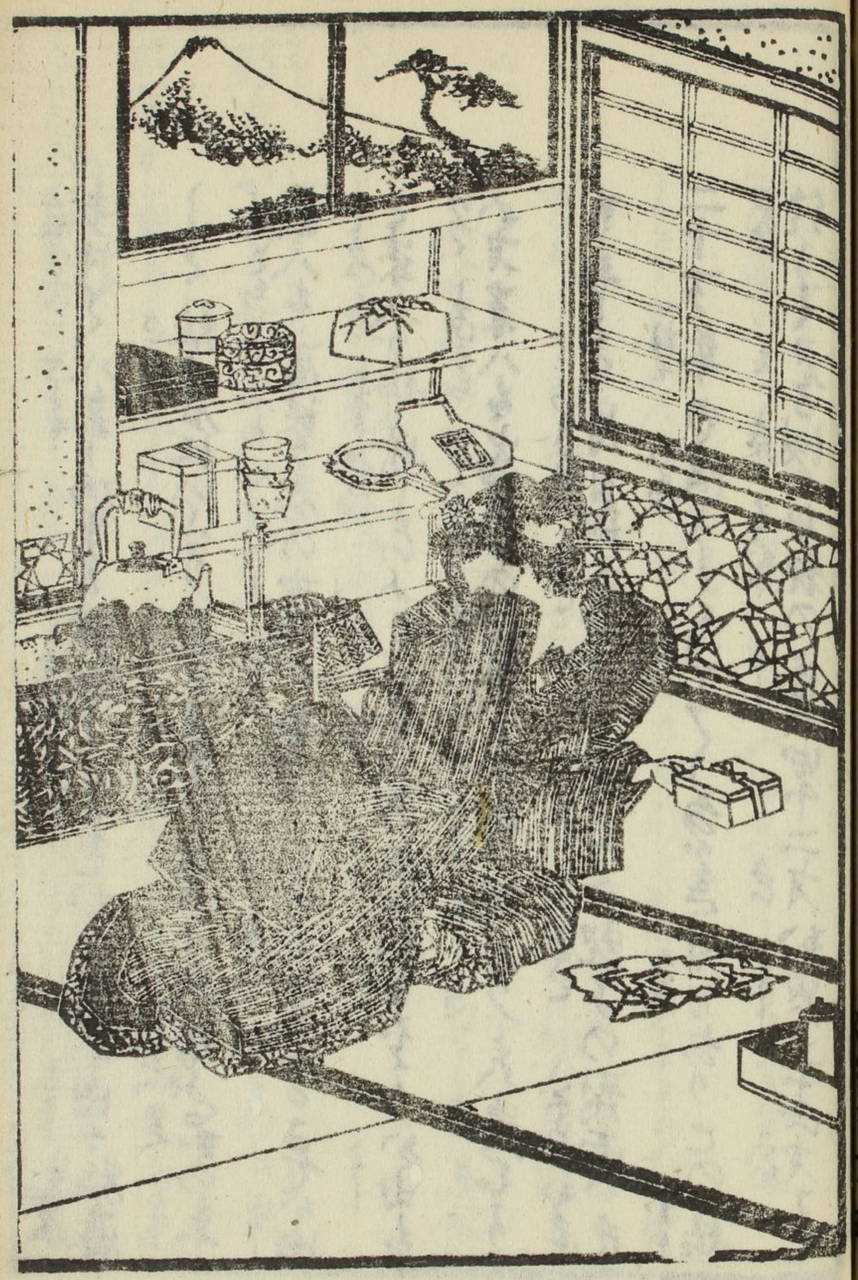
仏の勧進のため堪忍ごろうじやぐらいまゐらん親父ぜんの
存生の節とえ〳〵うくとろこんまうしてあく書うしてよう
寿命の間も自いまゝ〳〵ぐらい〳〵て私の在宅ゆゑ
マア夢ト申うまゝんうと元ぢりうる親とうの道理は
ちまたに紙張に、諸も才聞ひくの注障ゆゑ隔注ゆゑ
あるとて夜ゆ〳〵ゆくまうりあるそ三人とも海とうくの所ニ
マア私とまうこうぶ業びもうく海とうくゆくねむう〳〵と
今の男とえ〳〵いふもうぶう〳〵ごうあるとうきう〳〵と

今日来ゆゑ仕義の前涙よくゆゑ人合点〳〵ゆとうこ紙
くの物語ゆくゆゑに言葉書でえまう〳〵ゆくんより〳〵
けゑば左に有ると紙ひくく解〳〵うえ

○ゆゑもく お由ぶ方の祖母親八幡ひくゆうく
二十一幕 まくお由紙屋〳〵八十六幕の暑のことゆく
ありく〳〵とうんゆくく乙の紙あうけくる二十一幕の紙
いうてその庫ゆゑ落命〳〵ひくく〳〵ゆ夫婦よりく
縁合〳〵ゆえお由紙ゆく 由合の郷着紙ゆあてゆ

あくまでもあくまでも世の中離別なしつゝ乳呑子を
母の手元にやはなつ縁のふるべもそこばくのめぐみか
く親子ちりぐになりにし後にこの母は稚子を里
につかはしくその身は乳母に抱られどもふたゝびの縁を
まつばかりにて乳の上りし田舎商家しけるわらは彼
蔵の右衛門が父なりし蔵左衛門に預けて乞食となりて
まさきに結ひなりしる鴻田瑠璃園主女子なりし
なりかくて里子に出しけり八歳でお由が姉して今

婦妻行に全盛の芸者となりし宋八なりさて
宋八を里親の許なく成長り母は幼きより蔵左
衛門は子のあるよし我聞しとまで手元にあくて育
ぞして縁の里親に任せし由名十三才の頃宋八を里
親義のてふわが磨琴意人芸者に賣られ今の身
よあるそのよし限知して其後蔵左衛門の元に
うく倆るすも不自由田舎に本意にありてお由の母
親を子なの家よりひそかに田舎に倆るも不自由しく



あはれなる八年のあまり成遍しとぞ知るべしお由ゞ旅寐
しく佐倉にいとり暮るゝ程に結ぶ夢の幸
宗八郎唐琴屋の花一に有りしとなるさてお由
と宗八郎婦婦となりしとハ今この母が知るなりお由も
宗八郎を高家の附弟婦婦なりしとハ露ばかり
もあらぬ月日成るべしとぞこゝに親子の財奥元
二十五年の後ようくいとぎ月日あり この話
後ようく月日成る頃ハ母親の年齢ハ二十六才お由ハ二十五才
かの宗八郎二十二歳にかゝるべしとうりくうんがく
よりとなりしかば作者の綴りがあり きゆゑこうりがさ
ゆるこゝろもなくべし 凡て弱たる作者の筆ハ登場
りべきなれば後に言ひ出すべきまでしく案
しく言葉を綴るのみ
彰くお由と母親ハ都文の一修成同つ同ゝ月日なる新
に暮れ過ぎしかば一ツウお由今まぐいのさるこ
とと今日ばかりとなりとなりけハ千下おまくさ新ばかりの

[illegible]ばけものとなりてまうとのそばへ寄て縁もりおせ由〳〵ノ故さまの
[illegible]ものくるしくもあるこの男ある母人
さん彩むすんぜと多作八他人ぐまらいのうんのマノ親子の
中トやうこざいませんう〳〵サアもうこれ八ばけものこと[illegible]
三組の二ぐんかさひもちの[illegible]別ること[illegible]ふさの人今ときみ
[illegible]八ゞ親吉のふか母の[illegible]二十年にあるる[illegible]の
大和町[illegible]さんの両親に今もまゝせ〳〵義理あるこの
母[illegible]門[illegible]のの[illegible]の代〳〵[illegible]二方[illegible]ね

源の縁にめぐまれ注みめぐる婦姉ゞ姉も姉も[illegible]さんのお世
話にあ[illegible]く[illegible]日[illegible]方[illegible]同士[illegible]さんとも
[illegible]朝夕に他同ふ[illegible]の若旦
大旦[illegible]死[illegible]モウ八九年にあるけまどやの旦
[illegible]の[illegible]時に[illegible]幸[illegible]さんとを実の妹と[illegible]
ゆくと伝切[illegible]ものも不足の[illegible]苦
男八[illegible]さんの[illegible]のうく[illegible]
ごの和哥町[illegible]のまさとやのといふ者ゞ二方に方に

あるやうなくさくハどうもその作ハ拙く[illegible]の
[illegible]持負偏屈すぎくいろくと相撲の止方があいそを[illegible]
世の世界ハ[illegible]何の縁でう祝子こ人[illegible]の[illegible]
[illegible]界ハ[illegible]ぎ[illegible]米多り[illegible]其方[illegible]
[illegible]私ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ぬで[illegible]も[illegible]
[illegible]く[illegible]も親[illegible]の情[illegible]
[illegible]と今の[illegible]の[illegible]
[illegible]世の人情づくしの[illegible]

寄宅に[illegible]の落分やう其方の仕打でどうもあるお由も
[illegible]ぶ[illegible]ハ[illegible]
まの[illegible]の[illegible]唐琴[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
迎[illegible]
[illegible]
[illegible]

三ツ組盃の図

三組盃は子三人が別々に対面の儀式とせしものなり。関ヶ原の戦争後、織田氏の好みにて元の通夏小盃とも織田形とも云へり。秀吉の頃より異人ごとに武義世とりと伝ふ。武義世の小盃は武義世の三人盃そのうくさまざまとの人数なり。

第二十二齣

さてもお夏はくどくと過ぎし物うとりに去ろう。観文の理糸蔵と糸八分中絞ったる。現生物の変りくる男と和くバ者も南も五戈の時に別れ。二十年もぐ〜踊ろう。毋のこゑさめ合乾むしといふく一言八景切〜ひハ〜ね仕義とふいくその美も七年前のそぐ妙も此糸も違ハね義より云あハ〜郷

わるべてそこなが身さへわるまねの中とあるやうなるくるしみ
まるさそのやうかな文一生そのあぐ活業と思ひ〳〵のめがたるこれもお
嬉ごとうりあぐり金ひむうふる女事の他ようとめ
て実心の如我まさも入ちくどう縁切くこまきりふみ
らまうくのうりもせドあ〳〵孫毎〳〵不孝ぞとあれ
てごるの笑わうう隣の植根ぐ〳〵清元入のトン一を
嬉ゲ喧ふその一節
桜ホ雪アレさうしまんせ〳〵すあるゆうりとうれぐら
家傳まの寒ン紙撰ぶ浅間の文の尺八も一歌ぎり
とハさにかるハ風の糸同も花の松戸
他の謡唄も身にわるる縁の糸同の切よとハ松ちうさ
ね辻うう〳〵うとハ思へども義三郎とうまくうんのうぐく
くまるさまる事紙結ぶうぞと縁ゆへ〳〵るお由ゲみけぎ母
八義理ある義三郎に身を保せんと思ふ西表毒理屋
新の縁づり言モウ〳〵移〳〵るさるさんる親とそ
ふ三ぜう二十年蓬ぐだりでまもうう〳〵くく尊ゆて

くまるよりはやく親子の名對面まるやせば男ハ男と縁
を切る一郎が受ある癡へ對しく濟ぬのみんのと得て勝手
ふんなまるしいか是ら川と姉、妹、他人のまじハりと云
するぶん妹になり合宜く男をともに兄弟同然に年ごろ
そうさがその親子で妹も夫く得心しても人が多くの
親かしバ親の威光もおふけまど露命も息子ども
口のきゝ生殺生がひもない此母が死んで萬事のいひつけ
をまかしとすけなく義理引とあく「ア」婦人さん如是の

こなたのひつア慇懃しく私のまゝもて一通りかしゆゑ
きくてざきのきゝしト讀さうした七年以来佐倉を迷し
時よりしばらく紛遊一揆のやめて仲や私の忠くく
あそび合する今日の合浮気に極て其のしての男
を約よせられもうとおらしめれのが恥ぢのきうさまぞり
と思ひきらく思まぐ忘つけて嫁入と小梅の宅の
質商賣瑣料數寄の活業がくその身ふさし良く故
人にかとつかんの命日久現成菴でもかなありゆく一ろ

生成おとりあれトいろまでゝ、はなまでば無理も無理と言かで
いのぎ
言出しく今さらこんにゝ言葉成言葉の中よりこの義の程
ちうちう
相打の人騒に続くるはなまの小さ事の樽の騒
と押しあけ言ぐさ「イヤノウ姉おもものこの義理成おりして
たゝまもあり男相おかの身いての知づくひハうとけ自分お南女
ハ私ゲ文ものこの姫出表屋成相ん手で蔵ものあり敵の内
義ぐでざいまストいつて忘ぢの中ごろく二人ふり来る
まと
男幕のころあ十郎あ手りの尾出来ものさも上品自分

その出立ハ紋付加賀の羽二重紋付もちりめんの裏付
けくトーゞ着く対の帯を宝結
ひざ
結に珍敷つまぐりく結につけば「あのこハはるお隣で
お国にやつて出張居さる 世ハ男もこゝ私お姉ゞさんぐ
しく家と出るばかりでトお由ゞ母とお由と右左りこゝ同
よりまゝ尾ハうとうとうち笑ひ「さぞふしん事と思ひ
今日まとこゝ一ゞむのうち釈ものこゝ
まいとこいつのの業ゞ さとり 喜ゞ易いこと世の情 喜ゞ

こどもの身の素性をしらんが年来妙ぞと思ひそめしと
おそのどのゝ宮の姫のお由女郎そまとゝ初こばかり花多ぎ
浦くやそくまく里のこゝ一方ゆくぬ縁者の中花ぬく藤
ゆゝ浦くく屋田名不幸ゝと思ひ思ひ来かうてそと
年にいる世一幸ゝ思ひそうまと花多ぎ来が高紙おりしく
おそのゝうん幽とゝうゝとゝに縁切まとゝ義理の
浦いとゝとゝくゝそまに引くゝゝゝに思ひまいの花多ぎ
ゞ思ゝくつゞく相手ゝゝ今ゝゝ嫁の捨字も思の

ちうとの書くさぎぐそまとゝいうそゝこどもの書に
思ゝゝ女郎書ゝ書者でもゝまゝ方が当世ゝと思ひて
てもそうゝゝこ日ゝ尾の高高ゝ高ゝ完へもゝまゝ
とゝ郎思ゝ書の浦ゝ思ゝ遠中で桜川がゝゝ
ゝ思ぐくくの理ゝゝゝ一て世間の知ゝい若者のゝと
ゝゝゝ桜が花ゝぐゝに姫様真実に浦ひとげゝ
とゝゝ今ゝの女ゝゝゝば一日もゝゝ完へとゝのんぐゝゝ
書琴屋八茂ゝ来も桜ゝく 思 文一書ぐゝゝゝ

あい縁とは面白そうなもんだが米八が方へときどききたりと
ころくねむいさう去ろうが元此糸と同じ廓に居て時
どうかまはぬつくらふて川へ自害と申すになつては不残浅草
身柄がさてこそ素人のなりでこう面白いもんだが米八と
こうゆへくまれぬ根性がなよきりその中に嘘をつけば
円次郎とういふ人は深情の立て表向は男をかぐひと近松と
さわる義理者と聞くてまことに真に此方のものであろう。
それやどうも麻生入座つけねど優いふくなるもの男の

意地ある道引とつでありつけまでも鉄炮の通ひ拙
ひもじるものとつがまんざらでもなさそうでく世話敷しく
並でもあるまでとおとなしく気性のもその中にとろ
の様子張気也く音ひこの頃が気楽中現成菴で
おかやもくうつてお隣のお徳さんが瞬してかなもう一中
それとふのは此間知己になつてお由どの兄は小袖の
女房達の人じやと噂とうつくしい門にそのやさしさ
殊にそれまでも見目容言にまできまとこそであくぞ

藤兵衛が娵入るものとぞんじ、本家の五郎治もさ
ぞその様子何ひとつ不足はなしと思ふ所、今日は蜜くも子
藤の宅へ這入てくりなさる主人の屋敷へ
行ても身に縁つゞき主のさんの実の子と嫁て嫁
しさは羅漢のとり手年頃もつまみとしまして此上もとび
あらし此方はその気でも他くの人の金お由どのそれぞれ
さん藤兵衛が本妻にするのは心にそまぬ人ト思ふまゝ
是非いはれしそれは何子もさん方も多くお子のお由が遊びます

藤さんが夏ごろまゐりあつて　母その女「思ひがけない出隠居
さまの子がみんな思ひ合ふたて、それもくみ合ふて
にぞんじません　由「いやもういけ身もみなみなのお身の上
でござりまするそうしてみると藤さんのお落で世にある
ましまし米八さんが微にどうかお後の組合も違ふ心おそくて女の姉
とおもひともも女の心のそれひとをぞんじまして見れども
にかゝる縁の　藤「イヤその丁入まると気にかゝるがね　由「そうかいのう
るは藤兵衛さん　尼「まあ藤兵衛が来さっしゃるのへ。

義と
一お家よりこまやく奴人さん私の名にあやかるのおかし
づきひもくこまやく意地人うそくを嘉兵衛と改まる弥ふ
お由様源さんと浦いお義様のお志難有ありがたく〳〵しかも性ごとか
ゆく出来ぬ今日の仕義お由やくお礼をもおそのさんもいろ
くと世話ばかり　こまやくきまりめでたく安堵致さもや
さて又茶八ざるゆハそのお姉様茶彩にようく自義の為ーて参り
ます　ごそまやく浦にお出入やしの留山さんのゆ亀老職奥言四の
次郎迫常　こまやくに私もまくかにうしに世ゆこまでもけて

うろ
ゆの底様さんのくりまくぐ中りく孔まあゆの操家の西
義女ようハきさこまやきゆ性の茶代茶多米ぐ独人嫌人
丹次郎どの内宅と姉様様さうろ浦いこのまーこまやこ
今こまくちようとやくこまやこのちまーこ　まづそのこハこまこ
角も私ぐ義人茶かのくく和くく居さもや　まづくくさこまくく
奴人さんも由食義ぐろうト次の方へ向ひ「ヨイ何やま
嫌ぐうやちよりと来くくこんゆお嫌さんいゆへのこと浦ぐどお嫌
ハ先刻よりのお由ぐ工様イ国しく兼ぐ妙へそのあげく彼米

八重丹波の[illegible]と[illegible]

[illegible]

[illegible]

いひ合まして すこし〳〵ゆ[illegible]ん〳〵 めべあつまる客人ご[illegible]合
ちうん〳〵 ちうごぞ[illegible]ちう〳〵 ゐてい〳〵 ちうう子〳〵 ゐてこのひとが
[illegible]

〳〵アイサ きまこれ さう〳〵 てきうん うんうん〳〵 ゐと 同城 ゐ人合せて 戸 松の
方 ゐ孫〳〵 て 湯 とのく 出 孫 松 ゐ 家 ゐ 新 番 の 戸 松 と ちう こ
出 〳〵 まさんさぞ きづまり でき〳〵 ゆうる 〳〵 ゐ ゐ ご きづまり
より 第 ゐ ゐ ゐ の むづけ〳〵 コウ 自 殺 合 〳〵 ゐ で ゐ る コ ト と も く
ぞ ゐ め 後 の 方 い ゐ の ゐ ゐ に ゆ う 笠 ゐ ゐ の ゐ 松 〳〵 家 ゐ 家 ゐ 人 〳〵 イ

秋 〳〵ヨヤ作 山 ゐ 返 ゐ の き ち う ご ち よ と う 私 ゐ 新 番 〳〵 お 出 〳〵 イ
ゐんぞ 明 さ ゐ ゐ ち う う っ ゐ り 〳〵 ち ゐ ゐ 〳〵 ち ゐ ゐ 〳〵 ち ゐ び 門
ち う 〳〵 〳〵 ち ゐ に 家 ゐ り ゐ て 笠 ゐ 松 ゐ ち 〳〵 ち ゐ ゐ で も
い ち う う ち ゐ ゐ と ゐ 〳〵 〳〵 イ ー ち ア ゐ ち ゐ イ せ う ト ち ゐ ち ゐ ち ゐ 〳〵 ち ゐ ち ゐ
ち ゐ 戸 松 新 ひ ー り ち つ け て ち ゐ く ち ゐ く ち ゐ と 見 〳〵 ち ゐ ち ゐ
ぞ ゐ て ゐ ち う 下 ち ゐ り 〳〵 遠 〳〵 く 此 家 の 新 番 〳〵 ゐ 遠 ち ゐ ち ゐ 新 番
下 ち ゐ ち ゐ ち ゐ 番 ち ゐ 番 ち う 天 ち ゐ 一 度 ち ゐ 天 人 ち く 戸 松 ち ゐ の ゐ ゐ
ち ゐ ん べ ち ゐ ち ゐ 長 ち ゐ 新 ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ ち ゐ

湯屋人ぶ屋まろく長やを弟藏さんの物発表で部屋ぶ
まーヨ　サアく　こせーものの為に出湯人を下へ門どろ中
く門前のこのでの簡賞代拔ゆどの員に合番くやきまん
やりくをかろうーと　ふろやくふもやくあけるくひどうのてらや
大せいるひあ成ぶこ分うどれるくね　ぶ
けぶのあんぶるくうこるひ成合ぶまる　コウく　森分どんどぶ物ろう
あんびんまくあのうぶもあるけ森ぶいそうぶュしろの
ぶ門所へ知をでく　イヤあきまもあへこるぶいふぜ
ろうぶ　ざーい　ぶく
業人と商業へこをあのうんも門新　さア物ろいそうがいる

のめこるもぶ　やこうん　ぶいけふきでーへを男ゆよろいい
のぶ寄りぶくとぶくもるも後ごろいぶでくぶちのあー
て物くあせく山森へぶぶのあく後ゆうに出ぶく山ぶを
ひきうのぶくもやくもーごるろくーくトさーぶよ合ぶと
二階ひきずりあろーて門前へもるる前ぶくあるくあ
ひろくくゆきるる成ひと信あきちやうちやくよ湯ぶの門
ふあひとふ成ぶそもーときくとりくきも紅札ハットぶろうにさー
こむ法ろ後成拔へく湯ひのようぶんを手ろ成抱風者表

ド
ゝとゝくるぶうりどゝあ耳ゝにゝよゝ世ゝ小ゝ考ゝゝくゝ「アレ」かゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

判ばくちまでこそ手数に成業の為ゆゑ
しんぶんにてんぐを見てよ子供ども
この姫糸どうして知るすぐんと
出るらいてんの中のうに赤にまくる波鬼多和その
み判人義八の子孫ぞ居うしゃ山系義八
いと糸ちょうと来か「アイ湯ぶねのまちがい仕業とし
まる多りイせう「イエマアちょっとお出なさい「ヲヤうんざりま
モエ鬼「モシ義八さんマアなんぎる通りの始末ぶこと
琴屋のお職といらませうう法見るまくのうこーざくく
場ふこつけよさきちゃ外のまりーが出来やちん
マアあも南も速くいくくらんるまく私が代よ抱くさ女ぶと
おもいまと仕業の仕法もすぶ親方ふまうけさそこも
ふそうぶらうそそに免ぶてマアあのらのよ源代をこまや
もあーー山系八その方ぶ勝るまぶろうけまど他のうらく
いくくいるまでの真似出来めくサア山系義八さんの通へ
いっせ〜〇山系八名代すぶ「ヲヤそうざあいうそんるふ

寿

この支度をおイーてトこんとする紙屋きへ来ると止「イヤ
二階へくもうのりきんコウてるだのやお枝どんよそういつく
山もの寄せまこちらへけを一枚よこ一ぱくとそういつ
くすまや。エモシ蔭八さん座敷やの新やのものく山系物ご
とのひやせうがあんまり高慢ざらう何も
かもよくまへごとうへぐ波をこけふ多つとう波しやう
まづ今見このまへまなおづけまるとさも面くしく
見まるて要につりる沼見遠り彼蔭八ぶ山系と新

見合せてく小夢にあり「ヘエ」紙方振やアぶりく大造み
つくアあやアがる。モシおつくんて度紙うりけうぶ不自
由でも出にマアお出あせくまーとこまもりく駄る事ーこく
あまてる判人弾ふ指打ぶくらまー日の出の山系濁くハ
紙賞ハと驚る義と入さまよぶ我家へ引くまる京唐琴
原の二階こく出ます紙原こ山系の影遠系紙ーおて
給ゆくふ三味あくべ三味るこりくこまるに初そくどーある
お枝ぶ賞「枝」サア今の紙面系濁けくよさまるく私ぶ情ぐく

ざいの子孫達多糸どんの後しやう此糸さんをあつささんよ
ゑーてんもんの後見を任せつけて旦那とゆうまそへてゐる
そこまで出来ぞとも働のゆるものゝんざろうまさんハ家出
してもゑ姿のをバこのゝぶ今までの通りで並ぶりそう
してゐんろと此糸さんぶ二枚も下へ押さげゝまるろ並ぶ
お松合で影道出ーでもゑまさゝざァるめでやァるい
えそこまもあんまり言ゑくゝしのと実にあゝんの落成
ゝ何もかもぶちこゝゝく表まろさまけでなりまんよ

アイおそぐさのあゝまそこうあゝんの大事のものや
つゝ前のものハ枚ゝ私ぶ三人合ゝくまゝぐるぼりで表安へ行ゝう
まゝく身まゝーゝ枚ゝて三枚ゝ何ゝハ此糸さんと中のゝく
おゝゝん迷ゝ問題で祝けるのまーゝさーゝのをぶ
しのせうゝ工枚ゝ記のゝ義名ゝく言つけて尾張並へ抱ゝく
ゝ門ゝく金ゝて漢の扇ゝ議八分方のゝまゝるいやうに屋けて上
るさゝのまーゝサアゝ身ぶゝゝく表ゝまゝいまーゝト面八鬼と見
せゝけて内ゝふゝゝゝ情のまゝうひまゝまゝ切

のの[illegible]ねおいく[illegible]ん遠くハ世くつくもこのたくひ人
同様ひとふ[illegible]りも絶[illegible]ことハ[illegible]
おまへがこふめつくよさまちやア私ハ級すくせんサアく
ろよ一緒に産業へ来なせへおいくんたちがおもくまそこまそのの
まぐ[illegible]いちく[illegible]ものの内所のまくハのにおくぶぐ二階
中へいがきくまやせんモウく[illegible]ぐく[illegible]こいひつけ成ま
あこいまハなトあくりへきくせるかこ云のぐく内くまくま
氏名やこの新造の為よのこあるやうよこそたくひろり

第二十三齣の下

淵八瀬とあくあくひか川竹の流ま成箱く山の宿役宅
長屋の裏住居日向もこくきく護八が判人ぐまどを石ま印
堅ま帳と活業に品の正直の貧ま世に
ぞくハ妻女結の倹約もくくね世帯のこのやに相節
風形の如ひよ女房お民ぐんひ一つでまくくね暮くまを
どこのせ門ひけてくまくりこやくりく中へ氏名成わづけ
らまくくる其日くりさまぐ鄰で全盛のあくに今日を零

ぶく〻と変の食の栄耀ゝハ魚吉の墓も絶えり一ハ
するもの蒲油焼ハまづの物屋の主者「お職」といふ主一此
糸も浮世の上に麻巻ゝく北夷出綿の巻帯ハ隣家
の人も振ゝり見に辰巳屋の貸蒲団に麻の拍
板猿屋で買一に糸も宮中の月と賞翫もべ一歌色
ゝ自奥此雑文ゝく和察ゝ多く女房おそ民「ヲヤ
私ハ切ゝく居ゝ〻今表へ出ゝ〻ゝ兼さんが
お津賀さんの言葉と彩ゝ〻ゝ此蓋物とお金成

ゝ一きてこゝでいぶ一つけゝ〻ゝんが何ぞ絶ゝと
ゝ一ゝの紙買ゝとゝかんゝ〻ゝとヤてコレ出見
ゝさいこんゝおり一いのゝ〻ゝゝト蓋物紙ひゝく出
せゝ此ゝハ「ヲヤ此切に嬢一のゝ〻ゝ
ハゝをいゝゝヤアわりゝ〻ゝゝをいゝゝ
ゝ一ゝゝゝゝゝ一ゝゝ「コリヤアいゝ言成
のゝゝゝヤアゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ分乃中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らーの私やアまくさん遠をとのとおもひイーしと
八にもうあ民モシエ
ばお金ハあのくうん（上くこをまをくさくこ
「アレサあくーの私ガ拾ク
をりイーしとてちくぶちツせんあまうちんそをでいる物紙買ヲ
ちーヨ民「そをまドやアコるうでぶいやまを
「コレサくーお民つまう
ぬくことをうを遠延津賀さんの信切ハ義着に稀ふことでけをど
いちぶまを歩の合羽あのくうんよ拾てちくことそをでやくう極今に
じをまでまくを注で成いろうるーいをあ紙てヌやれこそ
てんぐ自分のてハをまを拾て汐ちまくーうんそとをくりかり

あくに仕ちんをまくうアそをまでくうお津賀さんガ何ぞ買て上
ろと兼さんとそうこをくとこしくこのハちーぶ宅の不拾金を
知ちくあるうをくうを民「そうさ極ト拾ちをくーよ拾ちをくこ
私ハ好きりの紙ムをさくーとヨトうちをくーしのうすべ
ちくーくーてこをのハあちりさぶをこいてあくーんちのいろけハあをど
ぶのうまをのもげちくぶハおどろぬりのこ民「りんよ極モちりの門と
おんの自貢とこをて成いりつけて海の芸紙ちぶて山葵ぶ下ちを
うり汐中ぶ知のくあをまをヨ民「そんるんにびつうりをこがいこヲ
で又貢国わる琉球革のたを命成ゆをもびう

ようしゝ仕あのハゝ子外聞のようい「エイやうまゝ」いそれよう
ハイやく貴ゝ様とうゝらくあゝんにてをお家流でもあ
げる支度をあの人ゝ「ハイゝく」出れかゝれにあるうういやぎへ
いやぎもの　ぐつあく「アレサ手いゝあゝ不あのいやゝヨあにしたを
夫婦喧嘩ゝてゝんゝ逆ゝそうありイゝさゝぎ姫ゝん
Tでありイせうゝ「イエモシおゝゝんゝ迷や姫ゝみぐものゝ筆
ぐやうたやゝ思ふ男と一所ようてまゝくゝをゝうう　喧
嘩あゝてゝんゝぎゝあゝんぞゝやゝのゝ世ゝるの

あゝうゝ思ゝぐゝぎゝゝゝ

うちたやく亭主義のつくまでこどもでも出産の祝祭りのと
ちゃ男子へぐるみがらのかうよ男門くるまんイヤまさうつん
ちと世事元人ママ十人ぐみ人めてるか児人喜ひ（うう通
人ふ老爺おつうん達をうずり込ぐりまんぜトちゅうの
中に奥更ちの七ッの徒ボウシリ〳〵モウ七ッ蕎
一コニヨリ〳〵ものうつてもお量と飯食と二ッかうつたの
らんぎうんぞ紀世をくッてもおひのじうろう（イく工ぎうぐ
ぎうんまうんぎア〳〵ぐ〳〵ろイせん実人先刻ぐうう絵ぐいてふ

おつを〳〵まこまうんのてをふさぐこうけぐこまをうがモシ
今にどうこうりまん人ナこ人のめ宰さんもせん今日
あうり人来ちうりそうかのりのぐテ（イく工ちくさぐ新ふ
つてうこ人新ぐをまぐ廓ふかるこ男ぐ面目ちゃ
しいこまこうつも私のおうげぐうんぐこと今ドやうくんで
居ちんもぐうつと男ひイをトさまちのちとーまぐ（こ
ちんでもうでも赤迷をこちんでも廓のヨ子浪ヌ
まぐでぐ行〳〵まん（ぞを氏に浪りのこてせん人ちゃ山

あるの時は新所でもつるくウろく途中ゝ迄で第一のこゝぢ
ありハちまひうと常じらまてくゝりイせんへナニくゝ
やどのまゝまひめへトまゝのちまゝ母ぢうが振をへもして宝
さんハ何の知に当時お出なさいまひた子やハたう徒歩とやう
ウ子へイゝエもうゝやアるまゝせん矣義のへ嫁さん所まくま
ハまてく暮さゝ宝ゝとのへとそでるゝもへハテ子その嫁さんの
お宝ハへはゝへゝうに巣鴨とやゝぐくちゝをへそのうハゝぐひる
ゆも急ゐとハめうゝまに巣ゝとものごとまるまちわ

ゝも入口の障子の外に女の声へハイナヽトハ兎角さの
ます へハイどゝまゝエ へアイウ廊へくゝお五の義ハさんの契
おまへさんでゝぐゝまひる へハテチ嫁の声ゝぐ何ゝとおくん勇
下ときくく二民 へこちゝでゝぐゝまひたお這へるさいまゝ へハイト
くゝまる
障子の表ハ当ぐゝも主と主をとして遠のゝくバ へサアくく
こちゝへおとりあさいます 何の内用でゝぐゝまひたさ へ内主
義ゐくこちゝへおとりあさハテゝうゝ月十ゝとやうかおま
ごゝとゝぐゝまゝバ 娘 へハイ久ゝくお逢ゝません ゝもきハ

唐琴屋の（ハイ）どなたでございけう（嫁）（ハイ）アノウ久〳〵く奉願
申上ます〳〵あんばいよう（エハアあなたと、ありがとう〳〵さ、お嫁さん
でございますか（姫）（ハイ）（ヤレ〳〵）そうでございます〳〵こちら
見物衆（山戸口）チット（番頭）ゴト〳〵ちと〳〵まつて少〳〵人中
さ極へうちかへさうとうつくしく御ます（コレサ）お番頭
上（極）う願ふマアどうぞ〳〵とてもどうぞ〳〵おさの
ます〳〵さ入うじやア（何）処なお居ますか（姫）（ハイ）お稽の方
よ居ますよ（ハアそして私よ用事とのふ〳〵けもあるあく

ゑ〳〵ともうんで廓（使）ぐもの奉けうこ（姫）（ア）
ト〳〵ありがとうんゴトあるく〳〵ものを〳〵（姫）（ハイ）
（ア）アノウ奉願（何）所へ（門）くさんあるさいみ（エイ）を
りまつマアとんごとまつ〳〵ご（何）（さん）ゴ其（中）を（角）
ゑうとも教うう（排）ばさんあることをひつゝ〳〵ゑうとを
よく〳〵ゑうけでありやあうゴマアどうあるくこのそこぶい
ゑ上（姫）（ハイ）ゑ〳〵〳〵（お今）（ハイ）ゑ〳〵ゑ〳〵サ（ハイ）（今の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏
姿の花
心の見立
あさめ
米八
夕べ
姿の花
心の見立
ゆきの
梅
蝶吉

春
姿の花
心の見立
此糸
秋
姿の花
心の見立
きくあう
於由

ひりイもの〳〵（繰）ヨヤ〳〵おのこんこ（どう〳〵）そマアこの〳〵（ヨヤ〳〵）
を善男とさ〳〵こそうだ（ちゃ）をうこのまー〳〵こん（そうざい）
中ごろ（こるのごろう）は中〳〵のろ〳〵と善男をいこのいたず（おまこ）ハマア
ぜうイそこく（おもの）ことけぞりイもとトいはまそ（お嬢ハ繰）
ぜんくのこと（ゆ）ゆ（繰）ちゃ〳〵（繰）ちゃんエ（ゆ）ゆ（繰）ゆ（繰）ゆ（繰

イエモウおそまつの品ばかりでこ
ぜいまーさま私やアさらぱりぞんじまーうんぞんぞ山ろ
動さるのゆちう紙のゑ筆さるといあやーぬくとゞる
てゞもまーしぐ品までつのぞんまで桜ゆうんもうのぞう
しくこゝくぞさるとあく上ッくうんまのとゆ拾さるとう夫
絵巻のまうんぞくさまを使ふーまーてぞんく出雲子
を何ものと思まぞゝ出れ屋敷ゆう痛みゆ若隠居され
てぞろと所まゝ拾出さるもうくゝゆりぞーと

まうんぞゆ拾とうゆう　ゆうさるとゆーてこそまゝ出使ぐく
ゑりゆーてこそまゝ出使ぐくうんのこそふーふそう
中腰出さるつくゝ見ると赤びつゝうりいてこそまゝ今日ち
らくまるうゆーこと「ヨさそうでゆりゆまりゆくぞうんのこそ
使ゝうのゆいゆまりこと物ゝりイーしぐ廣屋ゝ屋ふゝうーイ
あこ「まぞこゝうぞゝぞゝうぞゝゆりゆ存ぞゆいまけうま「ゝうゝ
まゆるとゆーてゑちゝこゝうまぞ何ゝも「イこくゝうんめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唐琴屋八ごうもりづうしの板ゐどうう[illegible]

[illegible]

[illegible]

屋の家の娘と問ふてゐるこそうぶ古鳥

左文左衛門八郎兵衛浪見の[illegible]

八ての家付の娘と申座くうでさるぶろうとうふまる

きまりしてそうしてれんまばおいうんのおのうへも

ぶろうろう軽く分ゞ付き申さうしづまおいうんはまさんの

方へ出るさるこけでせへませうこけへそうありイをと
嫌しい程へそまさへおゆメヤせバあこに方をうけまらゞ
モレこそくしやるけ年の作着に脇まそくも居ちを
うゑゝん雅をを所といあとこ引知てうふまれあゝ
マアく若恵の若別ごろうくおめせさいゞまを辺見物も
ゆへおさあるを掠ふあり手せうトいあこいそそこゝよ吸る
ぜんゝそのあとこのいと
ど若者碁路よけ糸お賭ゴナうゝびも恢びいさむ表の色
めでくく開く掠でよこと吉日占くそまゝよおさあるを家の

大黒屋こゝよあるせバ彼お由ハ蔵名乗ゞ妻と有又氏
糸く事こそ恵ぶ方へ行お賭ゞ手ふ出ハこまとう後古郷成
清の正ーちく通常ゞ稽こうり相こうり丹次郎ゞ
工成問く世話ふありー思ことのひ探めでこさ線うまバ
無黒屋ふあゝ氏と称る丹次郎ゞ別宅よ名乗成こうる
ひ知こうひ黒昌の碁成ひく嫌ふ除んでお賭ハ本妻
こうあり手ハもひこうこあゝね貞実あまバ親の古郷へ
すまこくお新屋さあこうやまハ五ゝまもその中脇ゝく

新造糸と紀聖と母の移判人ホ美人ハいづまもすもぐ
めでたくさうへまもこ美人ハそまつくま羅紙ううもり四人の女
ーーー